

たまつぱり

広報

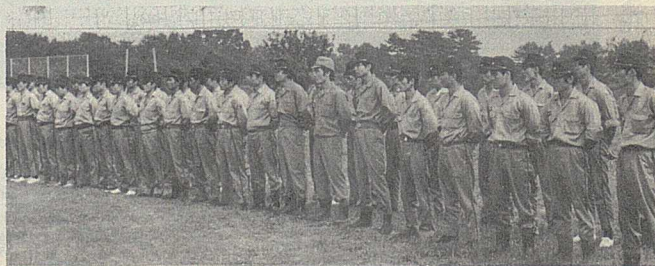
町政日誌
8月
1日 自立農家視察
7日 庁議
10日 青少年問題協議会
25日 地籍調査打合せ会
27日 農業委員会
28日 婦人議会
例月出納検査

(毎月1回発行) 発行人 町長 坂本 常蔵 昭和38年 1 月23日 第三種郵便物認可
印刷所 さんゆう社印刷 定価10円



猛暑のなか 消防の夏季訓練

イザというときにそなえて
ことしも消防団の夏季訓練が
おこなわれました。
八月一日、中学校では幹部
や新入団員など百五十人が猛
暑の中で汗を流しました。
化学消防車、小型動力ポン
プも出動し、操法訓練、各個
技練、消防戦術の講義などが
くりかえされました。



新入団員には、はじめての訓練

町ぐるみの体力づくり

気がるに参加を

たまつくりは体力づくり推進のまちです。国からの指定で昨年から三年間にわたって体力づくり運動を推進してきます。ことは、そのまんな中の年ですが体力づくり運動が少しづつ成果をあげてきています。

七月中にはママさんバレーボール、中学校の招待野球大会、郡民体育大会などがおこなわれスポーツ熱の高まってきたことを示していました。体力づくり国民運動のあらましを説明しながらこの三つの大会をカメラポしてみましょう。



バレーボール教室



郡民体育大会

この運動は、町民の体育レクリエーションの普及と保健栄養の改善をひろめてゆくためのものです。

これらのことをおこなう事業に対して県から補助金が交付されます。

町では、県からの補助金や町の費用によって教育委員、体育協会が主体となり全町民を対象に体力づくり運動をすすめています。

スポーツを軸に

そのため、各種の体育大会の開催、スポーツ教室、レクリエーション、ハイキングなど広範囲な体力づくり事業をひらいていきます。

今回おこなわれた三つの大会は、六月には、家族そろってのハイキングが好評をうけました。

会のあるごとに広報や週報でお知らせします。

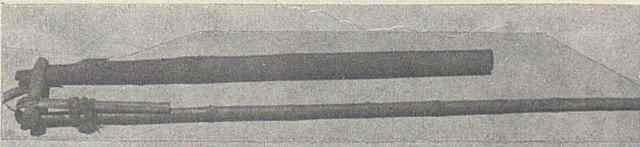
七月二十五日には、町内のママさん六チームが参加し、名バレーを展開しました。

ママさん

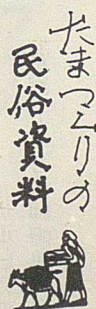
バレーボール

物をして、暑いうちにぶつため、この作業は重労働のひとつでもあります。

加茂 萩原幸三さん贈



暑い日に干し物をして、暑いうちにぶつため、この作業は重労働のひとつでもあります。



たまつくりの民俗資料

穀竿（からざお）

(5)

このへんでは別名を「くるりぼう」とか「ぼつちやらぶち」とも言っています。

麦の穂とり、大豆のからたたきとして用いられました。

いまの脱穀機と選別機を兼ねていた農具でした。

すべて自家製で、この農家でも見られました。

檜の木と竹とで作られています。麦うちなどをするとときに回転する部分がへるのので固い檜の木が使われていたようです。

日ごろバレーボールはおろかスポーツらしいものに縁のうすいおかあさんたちとあって名バレーあり、そして迷ブレありの熱戦でした。

ご主人や子どもたちの声援をうけながら楽しい一日をすごしました。

成績はつぎのとおりです。

優勝 玉川小PTA
準優勝 玉造西小PTA
三位 現原小PTA

郡民体育大会

県民大会出場の子選をかねた郡の体育大会で、玉造町チームはことしも優勝、これで連続七年優勝となりました。

七月二日にひらかれたこの大会は麻生町でおこなわれましたが、町選手は全種目に参加し、いづれの競技、球技などでも他町村に圧勝し完全な勝利でした。

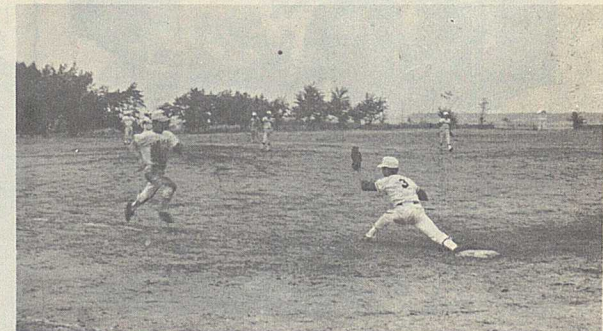
では、個人の部で活躍した選手をご紹介します。

男子百m

男子百m

二位 金沢三千雄
三位 栗山 義夫

中学校野球大会



女子

三種 一位 仲島 正俊
一位 西谷 泰治

百m 三位 河内 一子
二位 吉田 信子

二百m 三位 成島千津江
一位 萩原とし江

走中跳 一位 齊藤利久子
二位 齊藤利久子

走中跳 二位 田中 和江
三位 小沼小夜子

砲丸投 二位 成島千津江
三位 田中 和江

三種 二位 田中 和江
三位 成島千津江

かぶと虫

現原小四年

小貫正男

かぶと虫は、あらそいをするのでやっつけておれは強いだろう、といっているみたいだ、手の上にのせて歩かせるしくすぐった、むりにひっぱったり足でしがみついたり、たてもいたかった。

〇軟式庭球
男子一位 筒井 宮本組
二位 中野 今井組
女子二位 磯山 今泉組
〇柔道 二位 坂本 正

中学校

野球大会

体育教会の主催する中学校招待野球大会がこのほどひらかれ、町代表の玉造中は一回戦で惜敗しました。

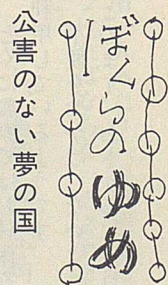
玉造町に近隣する、麻生町・北浦村・針田町・小川町から七チームを招待しておこなわれたこの大会では、各チームの選手とも、中学生らしいキビキビした態度で、終始健闘しました。

この催しは、ことしが第一回目の大会でしたが、体力をつくるとともに、友好を深める親善大会でもあったようです。

この日の結果はつぎのとおりです。

優勝 麻生中
二位 針田南中
三位 北浦中
小川北中

あなたも体力づくり運動に参加しましょう。



公害のない夢の国

現原小五年



金沢とし子

わたしの夢は、日本じゅうの庭や野原をお花畑にして、きれいなすみよい国にすることです。

お花畑には、うさぎやリスやシカなどかわいい動物がたくさんいて、人間とともに仲よしだったらどんなに楽しいでしょう。

すまいは、人間と動物がべつべつで、赤やみどりのやねがいくつもならんでいます。

公害の心配などなく、川には、きれいな水が静かにながれ、さかながすいすい泳ぎ、川辺には花がたくさん咲いています。

友だちがたくさんあつまって、たとえ、けんかをしてもすぐに仲良くなり、みんな楽しく遊べるところのある国にしたいと思います。



霞ヶ浦の水もまだきれいでした。
つきそいの父兄は後方のさん橋で
見学。



夏休みはカップ天国、
連日にぎわっています。
(町民プールで)

「備えあればうれいなし」とことわざにもあるように働けるときにできるだけ、働いておき、老後を安心してまかせられる国民年金に育つようご協力ください。

国民年金
保険料

7月から550円に

国民年金の保険料は、いままで一律四百五十円で納めていたが、今月から百円アップして五百五十円になりました。これは、二年前の国民年金法改正で夫婦二万円年金が実現し、これに必要な保険料額は被保険者一人あたり八百円程度にしなければならいとされました。しかし、当時二百五十円、三百円だった保険料を一挙に五百円も引き上げることは被保険者の保険料の負担能力などに問題があるとして考えられたことは、経済の成長に見合せて、段階的に保険料を上げて行こうということですが、今回の改正はすでに二年前から約束されていたわけです。

夫婦二万円の集金は、わたしたちの老後を考えた場合はまだまだ十分とはいえませんが、人口の老化、核家族の進行、あるいは、扶養意識の後退など、わたしたちの老後をおびやかす、さまざまな社会の現象からわたしたちを守るために生まれた国民年金は、もつと充実したものにならないければなりません。

夏

いまとむかし

夏休みも半分がすぎてしまいました。
プールへかようのに回数券を買っている児童、生徒が多いこのごろです。
そこで、ひとむかし前の夏休みのスナップをとりあげ、

いまとむかしを見くらべてみましょう。
約十五年前の高須水泳場で夏休みを使つての水泳訓練風景です。
写真の子どもたちも、いまでは二十五才になりました。

わあほいのぞうにもち

広島 松本 弘助

ふるさとをわたり

原神殿（はら しんでん）は、むしろの小屋にあつた大きな泉部落（いづみ部落）にはある。
以前「わあほい」という奇祭があつた。
こどものおまつりで旧正月の十四日、ならしもちの日におこなわれた。
中学一年生を親方にし、部落中のこどもたちが

つて柿の木をたたき魔よけの祈願をして歩いた。
これは同時に、いじめられるほどよく実をつけるといわれる柿の農作をねがうものでもあつた。
このお礼として、家々ではその日柿の木にならせた餅を与えた。その中には赤・白・青・丸・四角・たんざく・ねじりなどがあり、こどもたちを喜ばすのに充分なものがあつた。
こうして、まつりの日の夕方をむかえると、むしろ小屋にこどもたちがあつまり、中央に堀られた大きないりりをかこんで、ならしもちのぞうに食べるのである。

こどもの健康状況は、とくに体重や顔色に出てきます。食欲がないのは夏まけだらうぐらいにしか考えずに、ようすがおかしかつたら、いまのうちに、いちど医者にみてもらいましょう。
毎日、プールにかよっているうち眼や耳をわるくしていることがあります。
長い夏休みも半分がすぎてしまいました。
そろそろ宿題の整理をしてみよう。

こどもと夏休み



大きななべにつくられたぞうにもちは、またたくまにたいらげられてしまふのがつねであつた。
いりりの火に手をかざし、煙をあびて無病息災をねがひあつた。
ゲームをし、歌をうたい楽しんだあとは、その日にもらいあつめた祝儀袋をひらき、みんなでこづかいを分けあつたものである。……

泉部落出身。七十八才。

投書を
追つて

ありがたい昼休み勤務
水戸市一住民 61才

わたしは、玉造町の玉川に本籍をもつものです。
過日、娘の婚姻届のため、戸籍抄本が必要となり玉造町

役場に行きました。
時刻をみると、おりわるくちょうど昼休み時間でした。
道々、待つ覚悟で役場へ行つたのですが、心よくすぐ抄本を作成してくださいました。おかげさまで待つこともなく、そのうえ、一時五分の関東鉄道の上り列車にも乗ることができ、水戸駅に降りたときは二時半でした。
その足で水戸市役所にも行くことができ順調に用がはたせたことを感謝しております。
いま、多くの市町村役場では昼休み時間は受けつけをしてくれず、一時まで待たされることが普通です。
しかし、玉造町役場では、係のひとが交替で当番にあたり、住民のための昼休み勤務をしているとかがいまして、

住民にとって本当にたすかることと思われました。
お礼かたがた感謝の気持ちに筆をとりました。
おきがるにどうぞ

